

「花入」

桜の花を一つひとつ象嵌で作ってからさらに本体に象嵌で仕上げた立体感のある吊り花入れ。

非売品

「唐草透かし模様かんざし」

唐草の蔓を繊細な線で強調するため、透かし模様で仕上げたかんざし。

販売価格 60,000円(税抜)

「唐草柄香合」

かんざしと同じ唐草模様を施した香合。古典柄ながら長く愛されている唐草模様は、現代にもマッチし、モダンな香合です。

非売品

喜多 由寛

1974年大阪府生まれ。1999年関西学院大学卒業後、会社員を経て2002年京都伝統工芸専門学校(現 京都伝統工芸大学校)入学。2004年(株)中嶋象嵌に入社。主に糸目象嵌の技法を学び、2010年「京もの伝統工芸士」認定。全国および台湾のデパートでの実演販売で象嵌の手法を披露するなど、技術の普及に努める。

〒616-8376

京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町10-3

(株)中嶋象嵌

TEL.075-871-2610

FAX.075-882-0525

HPアドレス <http://www.nakajima-zougan.jp/index.php>



金属板に肉眼では見えないほどの細かい布目の溝を入れ、そこに金銀の板などを嵌めこんで紋様を描き出す象嵌の技術は細やかな手作業と高い意匠性が問われる工芸です。立体的な表現をするため、象嵌細工を面として使ったり、細やかな線を生かすために透かし模様にして繊細な表現に仕上げるなど試行錯誤しながら、誰も手掛けていない独自の作品になるよう心掛けています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

誰も手掛けていない作品を
象嵌で表現したい



京もの認定工芸士 第41号

喜多 由寛
きた よしひろ